

# 桜印の殺人ナイフ

望月苑巳

赤ちゃんは白紙で生まれてくるから  
泣き方が完璧なのだ  
母に抱かれながら  
喜怒哀楽を  
乳首から思い切り吸い込む  
見上げれば  
へこんだ空に桜印  
いつの間にか春になっている  
明るい少年が  
故郷を歌っている  
時々暗くなって  
時計回りにひねくれてしまったので  
若返りの招待状を破って  
貧相な大人になる  
ナマ乾きの夢  
つまみあげてポケットにしまう  
ポケットの中で申し訳なさそうに  
骨に擬態して  
カラカラと鳴る  
悲しい色で  
大人になってこの色に染まったのか  
手にはアーミーナイフが握られている  
かつて赤ん坊だったころの  
喜怒哀楽が  
音階状にこみあげてくる  
標的は  
桜印の  
自分自身  
夕暮れの自分自身